行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	穂坂自然公園管理事業	担当課	農林課
細分化した事業名			

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	心地よい定住環境のあるまちづくり
	政策	快適に暮らすための生活環境の充実
	施策	公園整備の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	穂坂自然公園（ふれあいセンター）及び自然観察園を管理し、豊かな自然を活かした都市と地域の交流を図るため。
事業の手段	林業に長けている峡北森林組合に穂坂自然公園の管理を委託し、自然観察園の遊歩道等を整備や管理をしてもらう。また穂坂自然公園ふれあいセンターや自然観察園を利用したイベントを企画し、穂坂自然公園への集客を図る。また自然観察園内にトレランコースをつくり、新たな集客ターゲットを狙っていく。
事業の対象	穂坂自然公園（ふれあいセンター）及び穂坂自然観察園

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	10,782	6,666	7,776
財源内訳	国・県支出金	9,000		
	その他（使用料・借入金ほか）	154	64	156
	一般財源	1,628	6,602	7,620
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.05	0.05	0.05
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	325	340	336
D 総事業費(A+C)	（千円）	11,107	7,006	8,112
主な事業費用の説明	穂坂自然公園管理業務及びイベント開催業務			

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度（6,491 円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	営業日数	（日）	311	214	214
	2	イベント実施日数	（日）	75	40	92
	3					

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	平成 26 年度より、穂坂自然公園の冬季の運営をやめたため、営業日数が少なくなっているが、冬季は来場者数が少ないため妥当だと考えられる。
	2	里山整備や木工イベントに精通した森林組合に事業を委託し実施するのは妥当だと考えられる。
	3	

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	来園者数	（人）	5,938	3,985	4,643
	2	イベント参加数	（人）	1,131	327	457
	3	事故件数	（件）	0	0	0

成 果		□ A 上がっている ■ B ほぼ上がっている □ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	冬季閉鎖のため、全体の来場者数が減少したが、昨年度はイベントの充実が図られ、利用者の増に繋がった。
	2	冬季閉鎖のため開園日数は減ったが、イベント開催日数を増やし、またイベント内容の充実化が図られたことにより昨年度より多くの集客があった。安定したイベント参加者を確保していくべきだと考えられる。
	3	自然公園内も適切に管理されており、来園者の事故はなかった。

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成 ■ B 期待どおりに達成 □ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） 園内は松くい虫の被害により多くの松木が枯れており、倒木の危険があることから、来園者の安全確保のため伐採等の維持管理の徹底を図る。 一年を通じて園内の散策が楽しめるよう各種草花及び広葉樹を植栽していく。 本年度、商工観光課と連携しトレイルランコースの整備を行い、スポーツも楽しめる公園として、また、幅広い年代の方々の健康づくりに活用していただく。
過去の改善経過	草花の植栽、間伐を継続して実施し適正な管理を行ってきたところである。また、イベントの開催も継続して行われており徐々に集客成果を上げてきたといえる。
課長所見	豊かな自然と森林資源の大切さを学ぶ機会の場を提供することで、林業への理解と振興に繋がるものと考えている。多くの市民に活用していただくために、引き続き、施設の PR と適時イベントの見直しを行い、管理・運営の充実を図る必要がある。